

東洋・日本美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史特論Ⅰ	美術と宗教思想	2	長岡龍作	前期 月曜日 3 講時	東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本欣久	前期 水曜日 3 講時	東洋・日本美術史特論Ⅲ
東洋・日本美術史特論Ⅲ	奈良の仏教絵画史	2	谷口耕生	通年集中 その他 連講	東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅳ	美術と宗教思想	2	長岡龍作	後期 月曜日 3 講時	東洋・日本美術史特論Ⅱ
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本欣久	後期 水曜日 3 講時	東洋・日本美術史特論Ⅳ
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡龍作	前期 水曜日 4 講時	東洋・日本美術史研究演習Ⅰ
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本欣久	後期 水曜日 4 講時	東洋・日本美術史研究演習Ⅱ

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LM11308 科目ナンバリング：LIH-ART601J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代の大仏造立を取り上げ、その意義を述べる。そして、その後は大仏造立が生み出した仏教思想との関わりから、以降の時代の美術とその意義を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と美術の関係を理解する。

(2) 美術に投影された世界観を理解する。

(3) 表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 大仏の世界1ー盧舎那仏と釈迦如来
6. 大仏の世界2ー盧舎那仏と不空羂索観音
7. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる1ー文殊菩薩
8. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる2ー観音菩薩
9. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる3ー普賢菩薩
10. 鑑真と仏像ー盧舎那仏と不空羂索観音
11. 鑑真と仏像ー盧舎那仏と薬師如来・千手観音
12. 空海と仏像1ー盧舎那仏と大日如来
13. 空海と仏像2ー胎内の法身
14. 比叡山の密教
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』(中公新書) 2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』(敬文舎) 2014年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LM13305 科目ナンバリング：LIH-ART602J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵
- 3回目 狩野派の系譜(室町から桃山)
- 4回目 狩野派の系譜(江戸狩野)
- 5回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 6回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 7回目 尾形光琳と乾山
- 8回目 日本刀とその精神
- 9回目 刀装具と鐔の意匠性
- 10回目 対外交易と長崎派
- 11回目 沈南蘋と南蘋派
- 12回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 14回目 京都の雪舟流と漢画の復古
- 15回目 雪舟流一長谷川派と雲谷流一

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LM98834 科目ナンバリング：LIH-ART603J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：奈良の仏教絵画史
2. Course Title (授業題目)：History of Buddhist painting in Nara
3. 授業の目的と概要：古代から仏教文化の中心地だった奈良には、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から近世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara has been the sacred center of Buddhist culture since ancient times. Countless masterworks of Buddhist painting have been produced throughout the ages in this region. Showcasing Buddhist paintings produced and enshrined in Nara that span in date from the Tenpyō period to the modern era, I will take up such topics as painting technique and iconography, painting workshops, and the ritual spaces and enshrinement rites of Buddhist painting.
5. 学習の到達目標：①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of the central themes of art historical research into Buddhist painting, including:
 1. Painting techniques—Traditions and transformations;
 2. Iconography—Its receptions and transformations;
 3. Production contexts—Individual masters and workshops;
 4. Sacred functions—Efficacies of painting in the ritual space.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。

 1. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
 2. 法隆寺金堂壁画研究の最前線
飛鳥白鳳期の仏教絵画をの最高傑作である法隆寺金堂壁画について、最新の光学的調査の成果も交えながら、その絵画技法や図像の問題を明らかにする。
 3. 天平絵画の彩色技法
聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいふべき奈良時代の絵画技法について考察。
 4. 奈良時代の儀礼と仏画
法華堂根本曼荼羅および薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 5. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図と法隆寺北斗曼荼羅の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
 6. 南都仏画と天平復古
平安時代後期に描かれた東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、南都の教学復興期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 7. 高山寺伝来の南都系白描図像
京都・高山寺には東大寺戒壇院扉絵図像をはじめとする奈良ゆかりの白描図像が伝来しており、その背景に華嚴教学を通じた東大寺と高山寺の密接な交流があったことを指摘する。
 8. 南都の浄土図
平安時代末期以降、奈良において阿弥陀浄土曼荼羅や補陀落山浄土図など多様な浄土図が生み出されたことを概観する。
 9. 春日宮曼荼羅の成立と展開
春日大社の社頭景観を描く春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を

明らかにする。

10. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

11. 玄奘三蔵絵と中世南都の仏教世界観

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

12. 南都系聖徳太子絵伝をめぐって

四天王寺本・メトロポリタン美術館本・旧大蔵寺本など南都の絵仏師が制作に関わったとみられる聖徳太子絵伝を紹介し、その図像継承の問題について考察する。

13. 大乘院尋尊と室町時代の南都絵仏師

室町時代の興福寺大乘院門主尋尊が『大乘院寺社雑事記』に詳細に記した絵仏師の活動や組織の実態を紹介。

14. 久修園院宗覚と近世南都律宗の画僧たち

久修園院宗覚や宝山寺湛海など、江戸時代に仏画の傑作を数多く残した西大寺律宗所属の画僧の作画活動を紹介。

15. 近代における奈良美術の再評価

江戸時代末期に鶴飼徹定や冷泉為恭らによって奈良時代の仏画の価値が再評価され、明治期に日本画や洋画の制作にも天平仏画へのオマージュが投影されていく過程を紹介。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LM21306 科目ナンバリング：LIH-ART604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、東大寺大仏と清涼寺釈迦の関係が導く宗教的な意義について述べた後、その後の宗教美術について、先の二者の関係を踏まえた観点から探る。さらに、清涼寺釈迦と関係の深い北宋時代の美術についても論じる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題

2. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと1

3. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと2

4. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと3

5. 顕密融合の伽藍1ー法成寺と撰関期の美術

6. 顕密融合の伽藍2ー法勝寺と院政期の美術

7. 顕密融合の伽藍3ー中尊寺と院政期の美術

8. 東大寺復興一重源の目指したこと1

9. 東大寺復興一重源の目指したこと2

10. 叡尊・忍性と仏像1ー釈迦如来

11. 叡尊・忍性と仏像2ー文殊菩薩

12. 叡尊・忍性と仏像3ー弥勒菩薩

13. 北宋美術の諸相1ー杭州

14. 北宋美術の諸相2ー寧波

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』(中公新書) 2009年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』(敬文舎) 2014年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LM23305 科目ナンバリング：LIH-ART605J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史特論IV】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 江戸絵画の「真」「贋」ー研究に立ちふさがる壁ー
- 2回目 江戸と浮世絵1
- 3回目 江戸と浮世絵2
- 4回目 武士の絵画1ー鑑戒ー
- 5回目 武士の絵画2ー暢神ー
- 6回目 京都と円山派1ー円山応挙ー
- 7回目 京都と円山派2ー応挙の門人たちー
- 8回目 京都と四条派ー蕪村、呉春とその門人ー
- 9回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10回目 好古家と考古学の黎明
- 11回目 江戸の絵画1ー18世紀の絵画状況と谷文晁の登場ー
- 12回目 江戸の絵画2ー洋風画(司馬江漢・渡辺華山)ー
- 13回目 江戸の絵画3ー渡辺華山「千山万水図」に描かれた景ー
- 14回目 東北諸藩の画人
- 15回目 伊藤若冲ーその真実を探るー

8. 成績評価方法：

- 【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。
詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LM13408 科目ナンバリング：LIH-ART606J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史研究演習 I】

1. 授業題目：美術史基礎資料読解
2. Course Title (授業題目) : Reading the historical documents of art history
3. 授業の目的と概要：この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『校刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』・『俊乗房重源史料集成』・『西大寺叡尊傳記集成』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.
5. 学習の到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
 2. 発表準備
 3. 発表準備
 4. 発表準備
 5. 発表準備
 6. 像内文書・願文を読む
 7. 像内文書・願文を読む
 8. 像内文書・願文を読む
 9. 像内文書・願文を読む
 10. 像内文書・願文を読む
 11. 像内文書・願文を読む
 12. 像内文書・願文を読む
 13. 像内文書・願文を読む
 14. 像内文書・願文を読む
 15. 総括と講評
8. 成績評価方法：
出席 [50%]・発表内容 [50%]
9. 教科書および参考書：
テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188、『俊乗房重源史料集成』（吉川弘文館）、『西大寺叡尊傳記集成』（法蔵館)
10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LM23406 科目ナンバリング：LIH-ART607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：日本絵画作品研究
2. Course Title (授業題目)：Training to read information of the Japanese paintings
3. 授業の目的と概要：「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。
本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.
5. 学習の到達目標：美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。
本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクターおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。
1 回目 ガイダンス
2 回目・3 回目 近世絵画
4 回目・5 回目 中近世の仏画
6 回目・7 回目 近世絵画
8 回目・9 回目 中近世の仏画
10 回目・11 回目 近世絵画
12 回目・13 回目 中近世の仏画
14 回目・15 回目 近世絵画
8. 成績評価方法：
十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。
9. 教科書および参考書：
【参考書】
◎美術全集
『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）
『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）
『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）
『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）
『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）
『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）
『日本美術全集』（小学館 2010 年代）
10. 授業時間外学習：日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。